

日本大学 三島 同窓会々報

第 15 号

昭和 60 年 10 月 20 日
静岡県三島市文教町 2
日本大学三島同窓会発行



昭和五十九年度総会開く

日本大学三島同窓会昭和五十九年度総会は、母校日本大学三島大
学祭期間中の昭和五十九年十一月
三日(土)、午後四時から同大学記
念館で開催された。

総会は、宮沢基人氏の司会で進
められ、見上勇逸副会長の開会の
辞、西村満男会長の挨拶の後、議
長団・書記が選出され、議長に山
内 茂氏、副議長に大井徹也氏、
書記に国際関係学部第一期卒業生
の斉藤 聡氏、短大家政科第二十
四期卒業生の小澤里佳子氏を選出
し、議事に入り、次の事項が承認
された。

- 一、昭和五十八年度事業報告につ
いて
- 二、昭和五十八年度決算報告につ
いて
- 三、監査報告について
- 四、昭和五十九年度事業計画につ
いて

- 五、昭和五十九年度予算について
- 六、活動状況報告について
- 七、その他

なお、事業報告・事業計画は、
角田義廣事務局長、予算・決算は
土屋忠得会計担当幹事から説
明、監査報告は持田光雄会計監査
からそれぞれ報告された。(詳細
は六・七頁参照)

活動状況報告では、勝俣敬充氏
(二期)から、東京での同窓会が
盛大に開催された状況や吉田敏雄
氏(四期)・今関邦彦氏(商経科
二期二期)から、各期の同窓会が
なごやかに行なわれたとの報告が
あり、またその他で、奥田吉郎副
会長の辞任の件と同氏による挨拶
高梨公之先生総長就任祝の記念品
贈呈の件が承認された。

総会に続いて恒例の懇親会が、
同会場にて恩師の先生方を囲んで
盛大に行なわれた。

高梨先生、第七代総長就任を祝つて 同窓会から記念品を贈る

このたびは日本大学国際関係学 部、三島同窓会から幹事会・総部長、高梨公之先生は、昭和五十九年九月をもって、日本大学 贈りました。先生からは、次の第七代総長に就任されましたが、ような御鄭重なる礼状を頂戴いそれに伴つて心からお祝いすべ たしました。

初めは後いふに情通の
く慶祝に存じます
さて先般手真多数を
頂戴いたし、折お話の
とあり本日は花並に
記念品もお送りくださいます
あんなに受け取りました
皆様のは厚意何とも
難有く厚くは礼を
申し述べます。

花並は小生の生活に
とっては一日も欠けず叶わぬ

もの今後とも机辺に
て長く利用させてい
は想志を述べます
いす弘存でいいます。

ここに謹しむに厚情
に對し深甚の謝意を
表させていたが、各位
に然る可くは鳳声の
けいをお願いいたします。

昭和五十九年十一月二十日
高梨公之
日本大学三島同窓会
会長

西村満男 先生

清華



私が三島学園に勤務したのは、昭和二十二年から三十三年まで足かけ十一年であった。ちょうど三島予科から教養部の時代で、学園の創業期に当たっていた。それ故、その後世田谷の文理学部に転動してからの三十年近い歳月に比較しても劣らない深い充実した思い出を残しているのである。二十二年頃の学園はまだ野重砲兵聯隊の跡そのままの姿で、兵舎の中を改造した教室には小さい黒板と粗末な机、椅子があるばかりで、と

ても今の学園の姿からは想像もつかないものであった。当時は軍隊から帰ってきた再入学した者も多く

く知識を求める意欲は今よりももっと切実で、学問への気運が漲ぎっていた。終戦直後の時代は凡てが荒廃し、食糧も缺乏していたが、新しい時代にかける期待が多く、学生も教職員も、明るい建設的な意欲に燃えていた。それだけお互いの関係は今よりももっと密接で、人生や学問について語り合ったり、乏しい酒盃を挙げて一夕の歓を共にしたりした。

予科から新制の教養部への移



三島懷古

沼尻正隆

行は、学園の大きな転換の時期であった。この時期に体験した半年にわたる学園紛争は、私にはまだ若い時代の初体験でもあって、強烈な印象を今でももっている。クラスの学生と夜を徹して議論したりもした。多くの純粋な学生が紛争の中で懷疑し、互いに不信をいだきながら離反していくのを見るのは耐えがたいことでもあった。教養部になってからは、学園は発展の一途をたどり、校舎も年を追って整

校友会、体育会、県人会などの諸君が献身的な努力を惜まなかった。それだけにファイナレのファイア、ストームには、若い情熱の凡てをぶつけて青春の感激に酔いしれたものである。このような学生時代の純粋な感動は、それぞれの人生においてはきわめて重要な体験である。それはいつまでも忘れ得ぬ青春の思い出として、社会活動のうちにややもすれば涸渇されてしま

えのない場として深く愛着を感じるからであろう。学生ばかりでなく、三島に奉職した教職員もまた、いまに至ってなお三島会を結成し、年に何回かの交歓の場を持っているのである。先般、蔵並先生と私がそれぞれ国際関係学部、文理学部の学部長に就任したことを祝して三島同窓会を開催していただいたことは何にもまして感謝にたえないことであつたが、遠く離れた地方からも多数の諸君が参加されて盛大であつた。

どう源泉となるのである。このような学園行事を通して、ともにものを創る苦しみや歓びを体得し、いつまでも愉らない友情のきずなを育んで来たのである。それ故、学園を巣立ってから永い歳月を経ればなおさらに、遠い望郷の思いのように切実に回想されるのである。三島学園を巣立った諸君が、いまもなお多くの同期会や同窓会の交流の場を持ち続けているのも、共通する青春の時代を想起するかけが

これは偏えに幹事諸君の並並ならぬ労に負うところであるが、何十年ぶりに再会したそれぞれの風貌には、一見誰であつたか判明しない諸君もあつたが、しばらく語り合っている間にかつての学生時代を想起してなつかしい思いで一杯であつた。共にスクラムを組んで学園讃歌を唱舞しながら青春の感激にしばし時を忘れていた。

三島同窓会がいつまでも、同窓諸君の「心の故郷」として、いよいよ発展することを期待し、諸君の益々の御健闘を祈る次第である。

沼尻先生略歴

昭和16・12	日本大学専門部高等師範部国語漢文科卒業
昭和19・9	日本大学法文学部文学科卒業
昭和22・4	日本大学三島予科専任講師
昭和24・4	日本大学文学部専任講師
昭和29・12	日本大学文学部助教授
昭和39・10	日本大学文学部教授
昭和51・5	日本大学軽井沢研修所所長
昭和57・10	日本大学文理学部人文科学研究所長
昭和59・3	文学博士の学位受く (日本大学)
昭和59・4	日本大学文理学科長
現在	日本中国学会会員 日本道教学会理事 大学漢字漢文学会関東地区委員 日本大学中国文学会会長
専攻は、中国古代思想、趣味は俳句、東京都出身、65歳。	

部長就任祝賀会



蔵並・沼尻両先生の学部長就任祝賀会が、去る六月二十二日、東京高輪プリンスホテルにおいて盛大に開催された。三島予科・教養部時代から今日の国際関係学部学生に至るまで、三島において講義されている蔵並先生が、日本大学三島学園長・国際関係学部長に就任され、加えて三島で中国文学（漢文）を教えておられた沼尻先生が、文理学部長に就任された。この機会に両先生の学部長就任祝を聞いたらとの話しが在京幹事のあいだでもちあがり、早速西村満男同窓会長を發起人代表とする会ができ、実現のはこびとなった。

当日は、教養一期生約五十名出席を筆頭に百四十余名の同窓生で賑い、旧交を温める機会となった。



蔵並省自 沼尻正隆 両先生学 沼尻正隆



昭和59年度 事業報告

1. 奨学金の給付並びに同窓会長賞授与

昭和59年度日本大学三島学園在学生から、次の者が推薦された。短大関係は、昭和60年3月25日の卒業式当日（日本武道館）、国際・学部教養課程は、4月9日の三島学園開講式当日それぞれ授与式が行なわれた。

奨 学 金 3名（別紙）

同窓会長賞 5名（別紙）

1. 学園歌集発行

本年度は、発行しないので、昨年度の歌集を三島学園新入生全員に入学祝として渡した。

1. 会 報 発 行

会報第14号、昭和59年10月20日発行 10頁 4,000部

1. 総会並びに懇親会

昭和59年11月3日(土)16時から、総会並びに懇親会を日本大学三島学園記念館で開催した。

1. 幹 事 会

昭和59年10月18日(木)18時30分から、日本大学三島学園8号館2階で開催した。

昭和59年度 収 支 決 算 書

(昭和59年4月1日～昭和60年3月31日)

(単位：円)

支 出				収 入			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 異	項 目	予 算 額	決 算 額	差 異
奨 学 費	550,000	217,100	332,900	会 費 収 入	1,910,000	1,921,000	△ 11,000
学 園 歌 集 発 行 費	200,000	250,000	△ 50,000	雑 収 入	953,972	1,000,721	△ 46,749
同 窓 会 報 発 行 費	300,000	140,000	160,000	前 受 金 収 入	900,000	566,000	334,000
各 科 同 窓 会 等 補 助	500,000	60,000	440,000				
総 会 並 び に 懇 親 会 費	450,000	398,000	52,000				
会 議 会 合 費	270,000	249,640	20,360				
通 信 運 搬 費	100,000	2,880	97,120				
事 務 費	30,000	0	30,000				
雑 費	300,000	163,220	136,780				
予 備 費	200,000	0	200,000				
計	2,900,000	1,480,840	1,419,160	計	3,763,972	3,487,721	276,251
基 金 繰 入 額	0	1,440,000	△1,440,000	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金	900,000	602,909	297,091	前 年 度 繰 越 金	36,028	36,028	0
前 受 金	900,000	566,000	334,000				
繰 越 金	0	36,909	△ 36,909				
合 計	3,800,000	3,523,749	276,251	合 計	3,800,000	3,523,749	276,251

貸 借 対 照 表

(昭和60年3月31日現在)

(単位：円)

借 方		貸 方	
項 目	金 額	項 目	金 額
普 通 預 金	982,909	基 金	18,080,000
定 期 預 金	17,700,000	前 年 度 繰 越 額	16,640,000
		本 年 度 繰 入 額	1,440,000
		次 年 度 繰 越 金	602,909
		前 受 金	566,000
		繰 越 金	36,909
合 計	18,682,909	合 計	18,682,909

昭和59年度収支について関係帳簿ならびに証憑書類を精査いたしました。記帳その他正確であることを認めます。

昭和60年10月18日

会計監査 中 島 敏 男 ㊞
持 田 光 雄 ㊞

昭和60年度 事業計画

1. 奨学金の給付並びに同窓会長賞授与

日本大学三島学園を昭和61年3月卒業予定（国際・短大）、移行予定（学部教養課程）の者を対象とする。

教養課程（法・経・商・文理）……………若干名宛奨学金（2名程度）

短期大学部……………各科1名宛奨学金または同窓会長賞

国際関係学部……………各学科1名（計2名）奨学金

1. 学園歌集発行

学園歌21首38頁に収め、2,500部を発行し、三島学園新入生全員に入学祝として渡す。

1. 学園歌の募集（別紙）

1. 会報発行

会報15号（昭和60年10月）発行 8頁 4,000部

会報16号（昭和61年2月）発行 8頁 4,000部

1. 名簿発行

各科の名簿作成を推進する。

1. 総会並びに懇親会

昭和60年11月3日（日）16時から日本大学三島学園記念館で開催する。

1. 幹事会

昭和60年9月20日（金）18時30分から日本大学三島学園8号館2階において開催する。

昭和60年度 収支予算書

（昭和60年4月1日～昭和61年3月31日）

（単位：円）

支 出				収 入			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減(△)	項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減(△)
奨 学 費	550,000	550,000	0	会 費 収 入	1,854,000	1,910,000	△ 56,000
学 園 歌 集 発 行 費	200,000	200,000	0	雑 収 入	959,091	953,972	5,119
同 窓 会 報 発 行 費	300,000	300,000	0	前 受 金 収 入	900,000	900,000	
各 科 同 窓 会 等 補 助	350,000	500,000	△ 150,000				
総会並びに懇親会費	450,000	450,000	0				
会 議 会 合 費	270,000	270,000	0				
通 信 運 搬 費	100,000	100,000	0				
事 務 費	30,000	30,000	0				
雑 費	400,000	300,000	100,000				
予 備 費	200,000	200,000	0				
計	2,850,000	2,900,000	△ 50,000	計	3,713,091	3,763,972	△ 50,881
基 金 繰 入 額	0	0	0	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金	900,000	900,000	0	前 年 度 繰 越 金	36,909	36,028	881
前 受 金	900,000	900,000	0				
繰 越 金	0	0	0				
合 計	3,750,000	3,800,000	△ 50,000	合 計	3,750,000	3,800,000	△ 50,000

国際関係学部同窓会への期待

国際関係学部同窓会前会長 川口 智彦

国際関係学部が開設されてからすでに六年が経過しようとしており、国際関係学部同窓会もこの三月には第三期の同窓生を迎え入れようとしている。

考えてみれば、国際関係学部同窓会の発足はかなり受動的なものであり、発足後約一年間は活動らしいことは全くなかった。その後、諸先生方から御助言をいただいたおかげで、昨年には第一回の総会を開催することができ、会費に関する案も無事可決された。また、一期・二期生からの会費の徴収には苦勞したが、関係各位の御協力で来年度の新生入生からは授業料と共に納入されることになり、国際関係学部同窓会もやっと軌道に乗れそうである。

さて、今後の国際関係学部同窓会活動の基本方針であるが、国際関係学部同窓会としての自主性を基調として、三島同窓会と協調し合って活動していくのが望ましいと考える。それは、国際関係学部同窓会が一つの独立した同窓会であるということと同時に、国際関係学部同窓会の会員がすべて三島

同窓会の会員であるという特殊な関係にあるからである。

そして今後の活動の課題としては、国際関係学部同窓会々報の発行、同窓会名簿の作成、また各地に支部を設けることなどが考えられるが、特に支部に関しては、国際関係学部の卒業生の中には海外で活躍している人も多々いるので、最終的には海外支部、たとえばニューヨーク支部・ソウル支部などを設けることが理想である。

しかし、現役員はみな若く、それぞれの仕事に多忙で、同窓会の活動にあまり時間をかけることができないという事情もあり、すべての課題を一朝一夕に達成するのは困難であろうと思われるが、国際関係学部同窓会を充実していくためには是非とも必要なことであると思うので、今後に期待したい。

私は本年度で会長を辞任し、現常任幹事の宮下公雄君に引き継いでもらう予定であるが、できる限り同窓会（三島同窓会、国際関係学部同窓会）の活動には助力していきたいと思う。（昭60・3記）

（韓国・中央大学大学院留学中）

桜文会だより

昭和六十年二月二日、三島の「ブラザホテル」において、第十六回短大文科同窓会「桜文会」が開催された。例年より一カ月以上早いこの時期に、会をもつということ、賛否両論あったが、卒業生と在校生の集まりやすい時期ということで、常任監事会で決定したものである。



当日は、土曜日の午後、二年生にとつては卒業試験終了後で、谷口文科長をはじめとする恩師の先生方、また同窓生、在校生を含め三百名余りの出席者があった。在校生による、歌・ゲームなど終始和やかな雰囲気の中で進められた。

とくに、在校生の出席が多く、新鮮味があふれていた。

桜文会が、今後ますます盛会であると共に、多方面にわたる、会員の方々の活躍が期待される。

桜栄会だより

春の息吹を身近に感じる三月十日、三島学園家政科同窓会「桜栄会」の総会が、田代パレスにて開催されました。

長年三島学園に勤務されてきた山本俤一先生が、この度、定年退職されることとなりました。これからは非常勤講師として三島学園にいらして頂くことになっております。今後の変わらぬ御活躍を期待いたします。

なお、本会にて山本先生に記念品が贈られました。

新入会員も二五五名を迎え、桜栄会も益々大きくなっております。次の同窓会誌「桜栄会第二十一号」は、来年の三月に発行されます。

会員の皆様の連絡お待ちいたしております。

学内短信

小池事務局長

本部へ栄転

三島学園事務局長であられた小池文雄先生は、八月一日付をもって日本大学本部総務部長にご就任された。

先生には、昭和二十四年から今日に至るまで、三十六年間の長きにわたり、三島学園の建設・発展にご尽力下さいました。先生の大いなるご活躍を期待いたします。

平野事務局長就任

小池前三島学園事務局長のご後任として、平野栄次先生が事務局長に就任された。

先生は、松戸歯学部事務局次長、経済学部事務局次長を歴任し、このたび三島学園事務局長に就任された。

伊藤就職指導課長

本部へ栄転

伊藤久光就職指導課長は、八月一日付をもって日本大学本部就職課長にご就任された。

伊藤課長には、国際関係学部第一期卒業生の就職活動からご指導され、初代就職指導課長としてご尽力下さいました。今後、大学本部での活躍を期待いたします。